

令和2年3月25日

## 4月からの新生活における注意点

### ワイヤレスイヤホン及びスピーカーの発火・発煙等に御注意ください！

—就寝中の充電時に発熱の可能性も—

新年度、新生活で、新しい電子機器を購入される方も多いのではないのでしょうか。近年消費者庁には、平成27年3月から令和2年2月までの5年間に、ワイヤレスイヤホンに関する火災事故を含む発火・発煙等の事故及び危険情報（以下「火災事故等」といいます。）が25件、ワイヤレススピーカーによる火災事故等が16件寄せられており、出荷台数が増えるにつれて、年々増加傾向にあります。

これらは、リチウムイオンバッテリーを搭載しているため、モバイルバッテリーと同様の製品と考え、火災事故等が発生する危険性を認識することが大切です。火災事故等を予防するためには、以下の点に注意しながら使用しましょう<sup>1</sup>。

- (1) 製品本体に強い衝撃、圧力を加えない、高温の環境に放置しない。
- (2) 防水の製品以外は、水をかけたり、濡れた手で触れない。
- (3) 充電中は周囲に可燃物を置かない。
- (4) 異音がする、煙が出ている、熱くなっている、変な臭いがするなど、いつもと違って異常を感じたら使用を中止する。
- (5) 充電ケースを布などで覆わない。
- (6) 付属の充電ケーブル以外で充電しない。
- (7) お持ちの製品がリコール対象かどうかを確認し、対象品であれば、不具合が生じていなくても使用を中止する。
- (8) 製造事業者、輸入事業者や販売元が確かな製品を購入する。

#### 1. ワイヤレスイヤホン及びスピーカーについて

ワイヤレスイヤホンとは、コードによる接続が不要なイヤホンのことをいいます。スマートフォンやパソコン等から、Bluetooth<sup>2</sup>やWi-Fi等を利用し、音声データを受信します。このうち、左右が分離した完全ワイヤレスイヤホンは、専用

<sup>1</sup> モバイルバッテリーの事故に注意しましょう！ 2019年7月31日公表

[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_safety/caution/caution\\_020/](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_020/)

<sup>2</sup> デジタル機器用の近距離無線通信規格の1つ。数mから数十m程度の距離の情報機器間で、2.4GHz帯の電波を使い文字情報や音声情報といった比較的低速度の情報のやり取りを行う。

充電ケース<sup>3</sup>に入れて持ち運びながら充電し使用します。左右がケーブル等でつながった左右一体型ワイヤレスイヤホンは、充電ケーブルにてパソコンやコンセントにつないで充電を行います（図1）。



図1 完全ワイヤレスイヤホン（左）、左右一体型ワイヤレスイヤホン（右）

ワイヤレススピーカーは、ワイヤレスイヤホンと同様、Bluetooth や Wi-Fi 等を利用し、コード不要で音楽を楽しむことができます。肩に掛けられるものや、持ち運んで使用できる小型のものも販売されています（図2）。



図2 ワイヤレススピーカー

## 2. 事故情報

消費者庁の事故情報データバンク<sup>4</sup>には、平成27年3月から令和2年2月までの5年間に、ワイヤレスイヤホンに関する火災事故等が25件<sup>5</sup>、ワイヤレススピーカーに関する情報が16件寄せられていました（図3）。

身体への被害については、就寝中に発熱した際に触れてやけどした事例や、髪が焦げた事例等が4件ありました。

<sup>3</sup> 内蔵する単電池の体積エネルギー密度が400Wh/L以上であれば、電気用品安全法の対象となり、同法に基づく届出や適合確認、PSEマークの表示が義務付けられています。

<sup>4</sup> 「事故情報データバンク」は、関係機関から「事故情報」、「危険情報」を広く収集し、事故防止に役立てるために、消費者庁が独立行政法人国民生活センターと提携して運用しているデータ収集・提供システム（平成22年4月運用開始）です。事実関係及び因果関係が確認されていない事例も含まれます。火災事故は当該製品に起因するのか、他の要因が不明な事故を含みます。

<sup>5</sup> 件数及び分類は、本件のために消費者庁が特別に精査したものです。



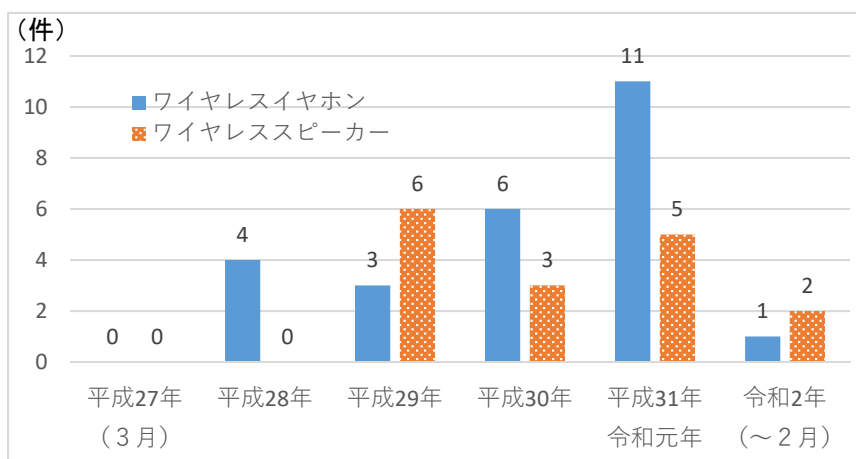


図3 ワイヤレスイヤホン及びスピーカーの年別火災事故等件数

### 3. 事故情報データベースにおける事故事例

#### 【事例1】

インターネット通販で購入したワイヤレスイヤホンを初めて充電していて 30 分くらい経過したころ、ポツと音がし、鉛のような臭いがしたので見ると、炎が 20 センチくらい上がっていた。息を吹きかけて消した。そばにいたので火事にならなかったが、いなかったら危なかった。鉄の台の上に布をかけて、その上でパソコンの USB 端子に差し込んで充電していた。取扱説明書は 2 つの外国語で書かれている。

(事故発生年月：平成 30 年 3 月)

#### 【事例2】

ワイヤレスイヤホンが発火し、アパートの 6 畳の和室が燃えてしまった。自分は不在だったが火災報知機が反応したようだ。消防の調査で、机の上に置いてあったワイヤレスイヤホンが原因だとほぼ特定されたとのことだった。机や座椅子、座布団や机の近くに置いてあったブルーレイプレーヤー、4 畳分の畳が燃え、たんすの中の服もススまみれになってしまった。

(事故発生年月：平成 28 年 11 月)

#### 【事例3】

量販店の UF0 キャッチャーで獲得したワイヤレスイヤホンで深夜音楽を聴いていたところ、深夜 2 時頃充電が切れたので電源を入れてコンセントに差し充電しながら就寝した。午前 3 時頃、焦げ臭さと煙で目が覚めた。手探りでワイヤレスイヤホンを探していた際、焦げたワイヤレスイヤホンを触ってしまい右手薬指と小指を軽くやけどした。充電していたワイヤレスイヤホンが真っ黒に焦げて煙が出ていた。布団の上にあったため布団も焦げた。

(事故発生年月：平成30年5月)

#### 【事例4】

1年前にインターネット通販で購入したスピーカーをリビングで充電していたら、突然「プシュ」と音がして破裂・発火し他のスピーカーやスピーカーを載せていた台や壁にも火が移り溶けた。スピーカー本体の電源ケーブル差込口が一番溶けていたので、そこから火が出たと思われる。メーカーに電話したところ、純正のケーブルを使用していなかったので対応できないと言われた。

(事故発生年月：平成30年1月)

## 4. 事故を防ぐために

ワイヤレスイヤホンやワイヤレススピーカーはリチウムイオン電池を使用しているため、使い方を誤ると、火災の原因となる可能性があります。モバイルバッテリー等と同様の製品と考え、火災事故等が発生する危険性を認識し、以下の点に注意しましょう。また、防水機能が付いているものもありますので、用途に合わせて製品を選びましょう。

### (1) 製品本体に強い衝撃、圧力を加えない、高温の環境に放置しない。

落下等により製品に衝撃を与えると、内蔵電池セルに圧力が加わり内部短絡が生じて発火に至る可能性があります。また、暖房器具の近く、炎天下の車内や高温多湿の場所では、液漏れ、発熱、破裂、性能低下の原因になりますので、使用、放置、保管しないようにしましょう。

### (2) 防水の製品以外は、水をかけたり、濡れた手で触れない。

### (3) 充電中は周囲に可燃物を置かない。

就寝中に枕元で充電していると、発火した場合にやけどの危険があることに加え、周囲にふとん等の可燃物が多いために大変危険です。

### (4) 異音がする、煙が出ている、熱くなっている、変な臭いがするなど、いつもと違って異常を感じたら使用を中止する。

そのまま使用し続けると、発火の可能性があります。

### (5) 充電ケースを布などで覆わない。

熱がこもりやすくなり、火災等の原因になります。

### (6) 付属の充電ケーブル以外で充電しない。

発熱しやすくなることがありますので、専用のケーブルを使用しましょう。  
もし専用のケーブル以外で充電した場合、事故が発生しても保証が受けられなくなる場合があります。

(7) お持ちの製品がリコール対象かどうかを確認し、対象品であれば、不具合が生じていなくても使用を中止する。

製品を購入した販売店や製造・輸入事業者にご相談しましょう。モバイルバッテリーでは、使い続けて事故に至った事例が寄せられています。

(8) 製造事業者、輸入事業者や販売元が確かな製品を購入する。

インターネット通販で製品を購入する際は、万一不具合等が発生した時のために、国内の問合せ先が表示されている製品を選びましょう。

もし、発煙、発火等が起きてしまった場合には、消防署及び製造事業者に連絡しましょう。製品の欠陥が原因であれば、床などを焼損した際にも部分修復費用を請求できる場合があります。

<参考>

○(独)製品評価技術基盤機構

5年で2倍以上に！リチウムイオンバッテリー搭載製品の事故

～モバイルバッテリーは購入時にPSEマークを確認しましょう～

<https://www.nite.go.jp/jiko/chuikanki/press/2018fy/prs190124.html>

急増！非純正リチウムイオンバッテリーの事故

～実態を知り、事故を防ぎましょう～

<https://www.nite.go.jp/jiko/chuikanki/press/2019fy/prs200123.html>

○消費者庁リコール情報サイト

<https://www.recall.caa.go.jp/>

<本件に関する問合せ先>

消費者庁消費者安全課

TEL : 03 (3507) 9137 (直通)

FAX : 03 (3507) 9290

URL : <https://www.caa.go.jp/>